

（第1面）

産業廃棄物処理計画書

令和4年6月15日

高知県知事 瀧田 省司 殿



提出者

住所 高知市高須1-7-26  
氏名 小松建設株式会社  
代表取締役 小松道明

（法人にあつては、名称及び代表者の氏名）

電話番号 088-882-5501

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	佐々木様邸新築工事 他
事業場の所在地	高知県香美市土佐山田町 他
計画期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	総合工事業
②事業の規模	前年度完成工事高 1,478百万円(R3年度)
③従業員数	23人
④産業廃棄物の一連の処理の工程	<ul style="list-style-type: none"><li>・建設工事で発生したがい類は、収集運搬業者及び再生処理業者（破砕）に委託し、再生砕石として再資源化。</li><li>・建設工事で発生した木くずは収集運搬業者及び再生処理業者に委託しチップ・肥料とし再資源化。</li><li>・建設工事で発生した建設混合廃棄物（金属くず・廃プラスチック類・木くず・紙くずの混合物）は、収集運搬業者及び処分業者に委託します。金属くずは再生処理業者（圧縮）で再資源化。その他再資源可能なものについては燃料にて再資源化、再資源化不能物については（焼却・埋立）で最終処分される。</li></ul>

（日本工業規格 A列4番）

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項								
(管理体制図)								
<pre> graph TD     A[代表取締役社長] --&gt; B[環境管理責任者]     B --&gt; C[建築部]     B --&gt; D[土木部]     B --&gt; E[総務部]     B --&gt; F[営業部]     E --&gt; G[各工事作業所]     G --&gt; H[従業員]           </pre>								
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項								
①現状	【前年度（令和3年度）実績】							
	産業廃棄物の種類	がれき類	ガラス・陶磁器	廃プラスチック類	金属くず	混合(安定型)	木くず	繊維くず
	排出量	2,346.7t	10.02 t	37.57 t	68.26 t	30.95 t	141.96 t	0.75 t
	産業廃棄物の種類	廃石膏ボード	廃油	—	—	—	—	—
	排出量	44.05 t	0.86t	—	—	—	—	—
	(これまでに実施した取組) 従業員及び協力会社へ以下の項目を対象に指導した。 ・産業廃棄物の分別を念入りに行い、廃棄物の再資源化に努めるよう徹底。 ・材料加工に際し、廃りを減少する目的を含め加工図作成。 ・資機材の転用及び長期使用の為、日頃からの点検。 ・現場発生廃棄物で現場内利用できる資材を選定し使用。(コンクリート破砕等) ・資材梱包には再利用できる素材を使用。							
②計画	【目標】							
	産業廃棄物の種類	がれき類	ガラス・陶磁器	廃プラスチック類	金属くず	混合(安定型)	木くず	繊維くず
	排出量	2,000.0t	10.0 t	35.0 t	60.0 t	30.0 t	140.0 t	0.07 t
	産業廃棄物の種類	廃石膏ボード	廃油	—	—	—	—	—
	排出量	40.0 t	0.8 t	—	—	—	—	—
	(今後実施する予定の取組) ・現状の取組通り今年度も実施予定。							
産業廃棄物の分別に関する事項								
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・事務所で発生するごみ(生活系・ダンボール)は、一般廃棄物として処分するように指導。 ・木材加工所で発生する木片・チップも再資源化に向け分別するよう指導。							
	②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・現状の取組通り今年度も実施予定。						

## 自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（令和3年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組) ・実績なし		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組) ・特になし		

## 自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（令和3年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	— t	— t
(これまでに実施した取組) ・実績なし			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	— t	— t
(今後実施する予定の取組) ・特になし			

## (第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項							
①現状	【前年度（令和3年度）実績】						
	産業廃棄物の種類	—	—	—	—	—	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	— t	— t	— t	— t	— t	
	(これまでに実施した取組) ・実績なし						
②計画	【目標】						
	産業廃棄物の種類	—	—	—	—	—	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	— t	— t	— t	— t	— t	
	(今後実施する予定の取組) ・特になし						
産業廃棄物の処理の委託に関する事項							
①現状	【前年度（令和3年度）実績】						
	産業廃棄物の種類	がれき類	ガラス・陶磁器	廃プラスチック類	金属くず	混合(安定型)	木くず
	全処理委託量	2,346.70 t	10.02 t	37.57 t	68.26 t	30.95 t	141.96 t
	優良認定処理業者への処理委託量	1.01 t	—	—	59.2 t	23.09 t	— t
	再生利用業者への処理委託量	2,345.69 t	10.02 t	37.57 t	9.06 t	7.86 t	141.96 t
	認定熱回収業者への処理委託量	—	—	—	—	—	—
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	—	—	—	—	—	—
	産業廃棄物の種類	繊維くず	廃石膏ボード	廃油	—	—	—
	全処理委託量	0.75 t	44.05 t	0.86 t	—	—	—
	優良認定処理業者への処理委託量	—	3.02	—	—	—	—
	再生利用業者への処理委託量	0.75 t	41.03 t	0.86 t	—	—	—
	認定熱回収業者への処理委託量	—	—	—	—	—	—
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	—	—	—	—	—	—
	(これまでに実施した取組) ・委託基準に従い、再生利用を優先した産業廃棄物処理業者を選定し、適正な委託契約をしています。 ・委託契約書及びマニフェスト(A, B2, C2, D, E票)について、適正に記載されている事を確認して5年間保管しています。 ・委託先については、インターネットで公表されている産業廃棄物収集・処理業者名簿に照らし合わせて確認を行っています。						

		【目標】						
		産業廃棄物の種類	がれき類	ガラス・陶磁器	廃プラスチック類	金属くず	混合(安定型)	木くず
②計画	全処理委託量	2,000.0 t	10.0 t	35.0 t	60.0 t	30.0 t	140.0 t	
	優良認定処理業者への処理委託量	5.0 t	—	—	30.0 t	20.0 t	— t	
	再生利用業者への処理委託量	1,400.0 t	10.0 t	35.0 t	30.0 t	10.0 t	140.0 t	
	認定熱回収業者への処理委託量	—	—	—	—	—	—	
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	—	—	—	—	—	—	
	産業廃棄物の種類	繊維くず	廃石膏ボード	廃油	—	—	—	
	全処理委託量	0.07 t	40.0 t	0.8 t	— t	—	—	
	優良認定処理業者への処理委託量	—	5.0 t	—	— t	—	—	
	再生利用業者への処理委託量	0.07 t	35.0 t	0.8 t	— t	—	—	
	認定熱回収業者への処理委託量	—	—	—	—	—	—	
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	—	—	—	—	—	—		
(今後実施する予定の取組) ・現状の取組の通り今年度も実施予定です。								
※事務処理欄								

(第6面)

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
  - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
  - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
  - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「一」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。